



かるがも



第56号

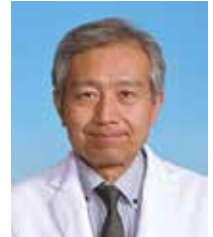
<http://www.pref.chiba.lg.jp/kodomo>

2022年〈令和4年〉10月



病院長あいさつ

病院長 中島 弘道



猛暑と大雨の今夏でしたがいかがお過ごしでしたでしょうか？

さてこの夏のコロナ第7波では、わが国の感染者数は世界でも最多となり、これまでになく小児入院が増加し重症者もふえています。そのような中で当院は他小児施設とも連携しつつより一層のコロナ対応を必要としました。県内の小児コロナ患者受け入れ可能病床は限られることから、当院の使命は重大なものであると認識しております。

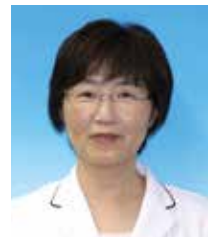
この第7波では10歳未満の感染者数が年代別トップであったのが特徴でした。小児用ワクチン接種が遅れてはしまったことや、小児は軽症との考えから接種先送りが多かったことなどが要因であろうと推測されます。幸い数々の治験からは成人ワクチンに比べて副作用の少ないことがわかっています。またワクチンで重症化が抑えられることも期待されています。こども達への積極的なワクチン接種が望まれます。

一方コロナ禍でのこどものメンタルが心配されています。最近の調査では、小中学生の約15%が中程度以上の鬱状態であることがわかりました。マスク越しの会話、コロナに対する恐怖や不安、罹患時の罪悪感などの様々な要因があります。それに対し私たち大人は何に気をつけてあげれば良いのでしょうか？まず大切なのは、こども達自身からその不安について話してもらうことです。そして今わかっている正しい情報を教えてあげてください。決して一人ではないことを話してあげましょう。

さて、当院では今年の6月に日本医療機能評価機構による病院機能評価審査を受け、平成14年から継続して5回目の認定を受けることができました。20年前には全国小児専門総合医療施設として初めての認定でした。病院の管理運営および診療機能について、現状に留まらず、改善に向けて活動を続ける姿勢が評価されていると思います。病院機能をさらに充実させるためには、開院して34年になる院内設備、構造の見直しを避けて通れませんが、今後県とともに取り組む重要な課題と位置づけています。

コロナと小児医療

医療局長 仲野 敦子



医療局長となり半年が過ぎましたが、その多くの時間をコロナ対応に追われていたように感じます。コロナ禍でなければ、医局やスタッフ控室あるいは院外において、スタッフ間での活発なコミュニケーションがみられ、また病院内外から多くの参加者が集まった研修会や講演会などが開催され、より良い医療の提供が行えるような体制づくりが可能ではないかと考える日々です。

新型コロナウイルス感染も第7波が落ち着きつつあり、巷ではコロナとの共存という動きが強くなっております。しかし当院においては、まだコロナ以前と同様な医療の提供には至っておりません。第7波では、小児感染者が増加し、重症例の報告もありました。当院においても、コロナ患者さんの受け入れやスタッフの感染による離脱に加えてRSウイルスの流行もあり、通常医療を大幅に縮小せざるを得ない状況となりました。コロナ患者さんへの適切な対応も当然ながら当院の使命ではありますが、様々な疾患を有する当院かかりつけのお子さんや先天性疾患等で当院に新たに紹介されてくるお子さんに対する適切な時期での治療も当院に課せられた任務です。コロナ禍に延期を余儀なくされた「待機可能な手術」であっても、成長期のこども達にとっては適切な時期での手術が必要であり、その延期は今後の成長への大きな影響が憂慮されます。

学校生活においても、マスクの着用、黙食、行事の延期や縮小等、様々な制約を受けているこども達です。身体は元気でも精神的な不調を訴えるこどもも少なくないとも言われています。コロナ以前のように、元気に友達と遊び、おしゃべりをしながら楽しく給食を食べるといふ、こども達にとっては普通の生活が可能となる日は戻ってくるのでしょうか。

今後コロナとの共存は不可避であり、今冬はインフルエンザの流行も予想されております。こども病院としては、これまでの経験を生かして、様々な疾患のこども達にとって必要な医療を適切な時期に届けることができる病院を目指していきたいと考えております。

麻酔科

一般的には、「麻酔科の仕事」というと「全身麻酔をかけること」と思われていますが、それだけではありません。以前は、確かに手術のための麻酔維持が主な仕事でしたが、最近はその仕事内容は周術期全般に広がっています。まず、術後管理に関わる集中治療分野や主に慢性の痛みに対して診察治療を行うペインクリニックです。そして、最近では、緩和医療、無痛分娩、検査鎮静などに麻酔科医が関与しています。

以下に、当院で我々が行っている仕事について紹介します。

1. 全身麻酔管理

小児における全身麻酔管理は成人とは異なるところがたくさんあります。まず、成人と比べサイズが小さく投与する薬物量にも十分注意しなければなりません。また、成人は単に体重換算で投与量を決定しますが、小児では年齢、発達、あるいは疾患によって麻酔薬の必要量やその効果発現などが異なるため、それぞれの個人に適したオーダーメイド麻酔で管理します。

2. 術後鎮痛

子供にとっての手術に対する恐怖は、これから行われる未知の事に対するものと痛みに対するものがあります。特に、複数回手術を経験している児の多くは前回の痛みを記憶しています。我々は、「前の手術が痛かったから、もう手術は嫌!」と言われないように、できるだけ術後の痛みを少なくするように管理しています。各末梢神経ブロック、硬膜外麻酔、経静脈的自己調節鎮痛法（IV-PCA）などを症例によって使い分けています。

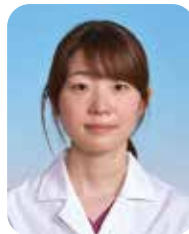
3. 緩和医療

小児専門病院には悪性腫瘍疾患は少ないですが、心疾患や消化器疾患などで慢性疼痛を訴える児はいます。それらの児に対して、無痛は難しいが笑顔が見られることを目標に痛み調節を行っています。

- 1 氏名
- 2 出身地
- 3 こども病院の好きなところ
- 4 医者になってなかったら?
- 5 ストレス解消法
- 6 休日の過ごし方



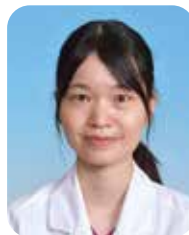
- 1 原 真理子(はら まりこ)
- 2 神奈川県
- 3 患者を病名ではなく名前で語れるところ
- 4 職人
- 5 京都の和菓子屋巡り、美味しい食事、ちょっとお酒
- 6 映画を観る、読書



- 1 横山 千咲(よこやま ちさき)
- 2 北海道
- 3 診療科や職種を超えて、みんなでよく相談しながら患者さんの診療にあたっているところ
- 4 本屋さん
- 5 読書
- 6 家でのんびり



- 1 児玉 洋介(こだま ようすけ)
- 2 横浜市
- 3 患者がかわいい。生活習慣病の患者が少ない。スタッフの方々がおだやかで話しやすい
- 4 バレーボール雑誌の記者、スポーツメーカーの社員、スポーツトレーナー、とにかくバレーボールに関わる仕事
- 5 食べたいものを食べておいしいお酒を飲んで寝る!あとは料理したりバレーボールしたり
- 6 家でゴロゴロ、バレーボール



- 1 熊谷 梓(くまがい あずさ)
- 2 横浜市
- 3 スタッフ同士の連帯感が強くて、患者さん1人1人真摯に向き合っているところ
- 4 弦楽器職人
- 5 好きな音楽を聴きながら筋トレ
- 6 楽器演奏・乗馬

新生児科

新生児科は、こども病院 3 階の NICU/GCU (新生児集中治療室) で働いています。

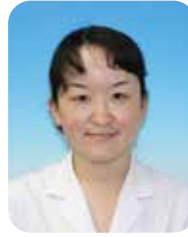
残念ながら院内での分娩ができなくなってしまいましたので、患者さんは、近隣の産院や県内各 NICU よりご紹介いただいています。先天疾患 (心疾患、小児外科・脳外科疾患、内分泌・代謝疾患、染色体異常など)、新生児疾患 (呼吸障害・新生児仮死など)、手術などの治療が必要な早産児など入院される患者さんの疾患は多岐にわたります。院内各科の先生方と相談しながら、いろいろな職種の方々の手を借りながら診療しています。

胎児診断のついでにしている患者さんについては、産科外来を受診していただき、胎児心エコーや循環器科・脳外科などの先生方と面談していただき、千葉大学附属病院やご自宅近くの周産期センターで出産後に、赤ちゃんを搬送していただいています。

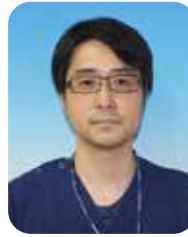
外来については、退院後の患者さんや近隣にお住いの NICU 退院後の患者さんの発達フォローを行っています。



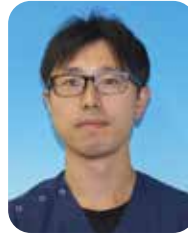
- 1 氏名 2 出身地 3 こども病院の好きなおとこ
- 4 医者になってなかったら? 5 ストレス解消法 6 休日の過ごし方



- 1 鶴岡 智子(つるおか ともこ)
- 2 福島県
- 3 他科・他職種と相談しやすい、自然が豊か
- 4 化石とか遺跡とかを発掘する仕事
- 5 何もしない・寝る
- 6 (平日もですが) 家事・育児…



- 1 大塚 直哉(おおつか なおや)
- 2 千葉県船橋市
- 3 緑に囲まれている
- 4 スポーツトレーナー
- 5 サウナ、ゴルフ
- 6 犬の散歩



- 1 海老原 知博(えびはら ともひろ)
- 2 広島県尾道市生まれ、愛媛県松山市育ち
- 3 周りに自然がいっぱい
- 4 獣医
- 5 音楽、映画、読書、運動
- 6 娘の要望にお応えする



- 1 木ノ内 よしな(きのうち よしな)
- 2 埼玉県
- 3 スタッフが優しいところ
- 4 小学校の先生?
- 5 ドライブ・泳ぐ
- 6 家事・送迎



- 1 青柳 藍(あおやぎ あい)
- 2 千葉県千葉市
- 3 相談できる専科がそろっているところ
- 4 手芸、物作りをしたい
- 5 ヨガ、睡眠
- 6 テニス、手芸



- 1 白井 まどか(しらい まどか)
- 2 東京
- 3 院内の挨拶が多いところ
- 4 医学部に受からなかったら、建築学科に受験予定でした。
- 5 睡眠、旅行
- 6 予定もなく外出します

臨床検査 & PCR検査

今回は千葉県こども病院検査科と、当院で実施している新型コロナウイルスのPCR検査についてご紹介します。

当院検査科は2階の検体検査部門と1階の生理機能検査部門に分かれ、臨床検査技師23名、検査助手2名の総勢25名で業務にあたっています。



▶ 臨床検査とは？

臨床検査は国家資格を持った臨床検査技師によって行われます。病気の診断、治療、検診の為に様々な検査を行いますが、その中でも患者さんから採取した検体(血液・尿・細胞など)を使つての検体検査や、患者さんの体に直接触れて行う生理機能検査(心電図検査、呼吸機能検査、脳波検査、超音波検査など)を臨床検査と呼んでいます。

皆さんは病院に来られて、なんでこんなにいっぱい採血しなければならないのか疑問に思うこともあると思います。これは検査目的にあった採血管で、決められた採血量を守らないと正確な検査が出来ないためです。

また、検査値は病態以外にも食事・安静度・体位・服薬・その他多くの要因によって影響されます。各々の検査項目にどの因子が影響するのか、その影響が臨床問題になるかといったことは、十分に解明されていませんが、検査値を解釈する上で、病態の変動以外の影響がなるべくないように、一定の条件、すなわち早朝空腹時に安静な状態で検体を採取することが原則になっています。外来患者では、なかなか早朝空腹時にというわけにはいきませんが、経験的に問題ないと思われる範囲で、随時採血を行うこととなります。



▶ 新型コロナウイルスのPCR検査について

PCR検査は標的となるDNAやRNAをPCR法で人工的に増幅させ検出する検査法です。3ステップの工程を約20~40回繰り返して行うため、検体が検査室に到着してから検査終了までに1時間弱かかってしまいます。検査が上手くいかなかった場合は更に時間がかかってしまうこともあります。

新型コロナウイルス検出には様々な方法がありますが、当院では原則鼻咽頭ぬぐい液を用いてPCR検査を行っています。抗原検査や唾液を用いたPCR検査では検出感が低いとされており、偽陰性として結果を報告してしまう可能性があるためです。また低年齢の患者さんでは唾液が必要量採取出来ず、検査そのものが行えない可能性もあります。

検査の実施については写真のようにヘアキャップ、N95マスク、ガウン、マスクを着用し、検査実施者が感染してしまわないように完全防護の元慎重に検査を行っています。

患者さん、ご家族の方へ

千葉県こども病院では「その子らしく、その子のために」の基本理念の元、全職員一丸となって日々業務にあたっています。

検体の採取や、生理機能検査では患者さんに「怖い、痛い、苦しい」思いをさせてしまい、ご家族の方も可哀想になってしまうかもしれませんが、これも正確な診療のためであり患者さんの健やかな成長の為にご理解、ご協力をよろしくお願い致します。



集中ケア認定看護師

小児は、大人と違い言葉で思っていることを正しく他者に伝えることが難しいです。そのため、子どもの『声にならない訴え』を、五感と自己の知識を元に敏感に感じ取れるように日々心掛けています。また、早くご自宅での生活が元通りに送れるよう、集中治療を受けている状況の中でも安全に留意しながらリハビリテーションケアをスタッフと協働し取り組んでいます。

急変に陥る前に早期介入が図れるように、院内迅速対応チーム(RRT)の一員として院内全体で異常の早期発見や治療・看護ケアに繋がるように活動を続けています。

また、現在は呼吸ケアサポートチーム(RST)の立ち上げに向けて頑張っています。当院でも気管切開の患者をはじめ、人工呼吸器管理を必要とする患者が多くいます。人工呼吸器管理を受ける患者は重症度が高く、在院日数も長くなってしまいます。そのため、呼吸ケアサポートチームを立ち上げて活動することによって、当該病棟の状況にあったケア方法のアドバイスや、人工呼吸器離脱に向けたお手伝い、在宅に向けた調整を密に行なっていくことができ、そのことで患者の在院日数・呼吸器管理期間の減少と合わせ、スタッフの不安や負担の軽減にも寄与していきたいと考えています。



赤石 直毅

ご家族に向けて

発熱について

発熱と聞いて思い浮かぶのは感染です。しかし、実は発熱と言っても医学的には二種類あります。それは発熱と高体温です。発熱は一般的に知られているように感染によって引き起こされます。逆に高体温は感染などではなく、暑いところなどの環境の高い温度によって体温が上昇する状況です。体の中での違いですが、発熱に関しては免疫細胞が脳に指令を送って体温を体内で上げようとするのに対し、高体温は体の中での変化は特にはみられないのが特徴となります。

発熱時の対応について

発熱している時は非常に不安になります。

ここでは感染に伴う発熱時の対応・観察についてお伝えしていきます。

まず熱の上がりをはじめですが、熱のあがり初めは体内の熱を外に放散させないように血管が収縮して手足が冷たくなり、悪寒や震えが出ることが多いです。熱があるのに手足がまだ冷たい場合は今後も熱が上がる可能性があるため、寒がっている場合は保温に努めましょう。

次に熱が上がってきた時は、身体が全体的に火照り、汗ばみ呼吸が速くなることがあります。その際は汗をかいたら服を着替え、水分補給を飲みやすいものでいいので取っていきましょう。そして身体を冷やすのは本人が気持ちよさそうにするなら冷やしましょう。

熱が下がってきた場合は、引き続き本人が気持ちよさそうなら身体や頭を冷やしていきましょう。しかし、熱は下がっても再度ぶり返すこともあるので、丸一日平熱が続くようになるまでよく観察をして熱を計っていきましょう。

また、受診の目安ですが、熱があるけど元気な場合や、熱以外の症状が特になければ自宅で様子を見てもいいのですが、熱の上昇がいきなりであったり、元気がない場合や咳や吐くなどの症状がでている場合は迷わず病院を受診していきましょう。

クリニックラウン が来たよ～

新型コロナウイルス感染症が流行し、感染拡大防止のために病棟訪問をしてきていたクリニックラウンの訪問は一時中止となり、2021年度から Zoom を利用して、月 2 回の web 訪問でこども達に楽しい時間を届けてきていました。

今年度も引き続き web 訪問で対応していましたが、感染拡大がやや落ち着いたため、院内の感染対策基準に則って、急遽 7 月 7 日と 21 日の 2 日間は、2 年振りにリアル訪問で行いました。

久しぶりの訪問でまさに「七夕」のようでした。



今回は2日間で4つの病棟を訪問しました。

過去のリアル訪問や web 訪問でクラウンを知っている子、今回が初めてで最初は戸惑っていた子、朝からずっとクラウンが来るのを待っていて、病棟の入り口でクラウンを出迎えてくれた子など様々でしたが、みんなクラウンのパフォーマンスにみるみる引き込まれていき、とても楽しい時間を過ごすことが出来ました。

右上:大ちゃん・きゃしー・保育士さん 左下:きゃしー・まめたん



花一杯の庭作り



外来中庭のガーランド

COVID-19 感染症拡大防止のため、院内でのボランティア活動を控えて頂いておりましたが、活動できる範囲でこども達や私たちスタッフへ癒しの空間やグッズを提供していただきました!! ボランティアのみなさま、どうもありがとうございます(^.^)♡



病棟からの依頼品 ケアグッズの各種



ガラスアート